

今、何の病気が流行しているか！

【感染症発生動向調査事業から】



KAWASAKI CITY

平成25年5月27日（月）～6月2日（日）〔平成25年第22週〕の感染症発生状況

第22週で定点当たり報告数の多かった疾病は、1)感染性胃腸炎 2)A群溶血性レンサ球菌咽頭炎 3)水痘 でした。

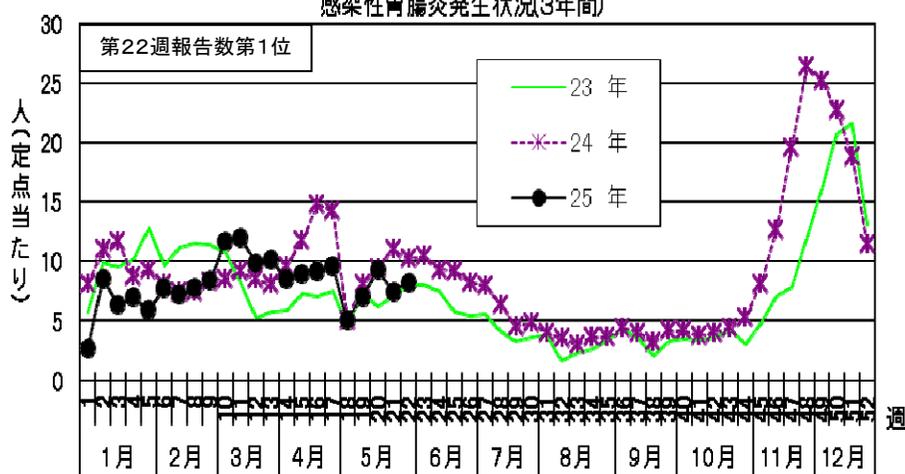
感染性胃腸炎は定点当たり8.24人と前週（7.45）より患者報告数は増加しましたが、ほぼ例年並みのレベルで推移しています。

A群溶血性レンサ球菌咽頭炎は定点当たり2.76人と前週（2.97）より患者報告数はやや減少し、ほぼ例年並みのレベルで推移しています。

風しんの届出が15件あり、前週より報告数は少なくなっていますが、例年に比べると報告数は非常に多くなっています。現在、本市では、妊娠している女性の夫などを対象に、麻しん風しん混合ワクチン（MRワクチン）接種費用の一部助成を実施していますので、予防接種の検討をお願いします。

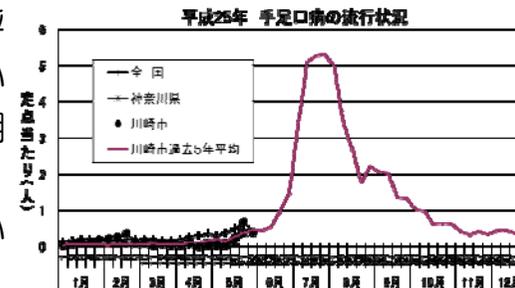


感染性胃腸炎発生状況(3年間)



夏に向けて流行する感染症～手足口病～

現在、手足口病（いわゆる「夏かぜ」と呼ばれる感染症）の患者報告数が宮前区を中心に増加しています。手足口病は、例年、夏期に向けて患者発生数が継続的に増加するため、今後保育園や幼稚園等の集団施設を中心に流行が拡大する可能性があります。



手足口病の特徴

手足口病はその名前のとおり、手、足、口（口腔粘膜）などに現れる水疱性の発疹を主症状とした急性のウイルス性の疾患で、乳幼児を中心に夏期に流行します。発熱は出ないか高くても38℃程度で、咳やくしゃみなどのしぶき、便や水疱の内容物が感染源となり、3～5日程度の潜伏期間の後に発症します。また、ウイルスの種類によっては、脳炎を引き起こしたり、爪がはがれるなど、重症化することもあります。

●気をつけたいこと

多くは数日中に自然に治りますが、口の中の水疱が痛くて飲食ができないこともあるので、脱水症状に注意し、水分補給を心がけましょう。また、感染を防ぐには、ウイルスで汚染された手指をよく洗うことが大切です。特に排泄物の取扱いには注意しましょう。



川崎市における月別風しん届出数(平成25年6月分は6月2日診断分まで集計)

